

式辞（三原キャンパス 2012）

卒業生・修了生の皆様、おめでとうございます。ご家族と関係者の皆様方、お祝い申し上げます。

ご来賓の方々におかれましては、ご多忙のなか、本学の式典にわざわざご光臨賜り感謝いたしております。そして、この場をお借りしまして、本学関係者とともに、いつも変わらぬご支援に厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

<卒業生・修了生の皆さま、お座りください。>

（注：冒頭からここまで三キャンパス共通）

卒業生の皆さまは、この三原という地で、本学の保健福祉学部の各学科・専攻科・大学院保健福祉学専攻を学ばれ、ご卒業になられます。これは本当におめでたいことでもあります。非常に幸運なことでもあります。

おめでたいのは、第1に、皆様は、今日の社会で大変重要な、看護、作業療法、理学療法、コミュニケーション障害、人間福祉の各学科、助産学を修め、学士の学位、修士の学位を見事に取得されたからです。（ここから、***印までは、三キャンパスでほぼ同じ内容です）しかも、第2に、本学の学位は、日本全国でみても大変価値のある学位だからです。なぜ価値が高いかといえば、本学の研究力が高く、その高い研究力をもって、いい教育がなされているからです。日本の大学の研究力をみる場合よい指標とされるのは、文部科学省が各分野の専門家に依頼して選定し、研究費を授与する科学研究費補助金（略称で科研費）の採択件数ですが、中四国九州沖縄の全部で25ある公立大学の中で、本学はこの件数は4年連続第一位です。国立大学の研究者数は本学の数倍以上あることが多く、単純に件数を比較できませんし、また、国立大学にはさまざまな種類の研究者があり、科研費応募資格のある研究者の数が外部からはよくわかりませんので、仮に、各大学の年間の経常費で研究費採択件数を割って比較しますと、平成21年度で本学は1億円当たり1.37件で、中四国九州沖縄の全部で22の国立大学のうち、平成21年度の年間経常費が同年9月時点で公表されている13大学と比較しますと本学は相当な上位でした。国立大学と公立大学の研究にはしばしば性格の違いがありますから、この数字だけで判断するわけにはいかないものの、本学の研究力は高いといえると思います。*** 付け加えますと、科研費の採択教員比率は通常20%ぐらいといいますが、三原の5学科全体では30%ですから、研究力の高い教員が多いといえます。

（ここから###印まで三キャンパスほぼ同じ内容です）この研究力の高い大学で皆様は教育をうけられたのです。しかも、近年では多くの大学で卒業論文を書かずに卒業認定していますが、本学では、全学生が卒論を書いて卒業します。卒論では、科学研究の正しい方法にもとづいて、課題を学生がみつけ、文献渉猟し、論証か実証をし、創造的に結論を導き、文章にまとめ、吟味し、公開の場で発表しますから、本当に大学らしい教育をうけて卒業します。卒業論文発表会には私も出席することが多く、卒業論文集も見ますが、学会でほとんどそのまま通用するほど研究論文として優れたものがあり、驚くほどです。

このような大学で、上のような教育をうけて、ご卒業になるのです。皆様本当におめで

とうございます。また、幼いころから本日の卒業生を大事にお育ていただいたご家族や関係者の皆様、重ねてここで、こころからお祝い申し上げます。###

ところで、皆様は三原で学生生活をおくられました。このことは皆様には大変幸運なことだったと私は思います。

古来、風土というものは、そこに関わる人々に大きな影響を与えます。大変うれしいことに、広島全体が素晴らしい風土に恵まれているのですが、三原という風土は保健福祉学部の方々が生み育つにはとりわけ適していると私は確信しています。

三原は、著名であれ、無名であれ、すばらしい人を生み育む風土のようです。有名な偉人も多いのですが、ここでは2人の著名な方と、名前はわかりませんが世界の感動をよぶ人々を一例あげてみます。

第1は、童謡「かもめの水兵さん」や「村の船頭さん」などの作詞者、武内俊子さんです。この方は浄念寺、三原キャンパスから北東で、宗光寺の西、県道25号線沿いのお寺で生まれ、本学の前身、広島女子専門学校で学ばれた方ですから、三原生まれで6歳までは三原で育ち、かつ皆様の先輩ですが、ご承知のように、戦前の童謡として最大級のヒットをし、かもめの水兵さんは読売新聞文化部によるとアメリカ、フランス、ドイツでも歌われたといえます。

この方は童謡作詩者と偉大であっただけではありません。結婚して4人の子供をご自分で育てながら、名曲の数々を世に出して下さいました。社会的活動が女性にとって難しかった戦前に、家庭生活も大事にしつつ、仕事もなさり、可愛く品のいい詩で人気度抜群の活躍をなさいました。三原という風土はこういう全国的な日本の宝のような方を育んだところなのです。

第2は、並木宗輔氏です。この方は、三原の成就寺の僧侶でしたが、還俗して浄瑠璃作家となりました。なんと、「仮名手本忠臣蔵」「義経千本桜」「菅原伝授手習鑑」の作家ですから、浄瑠璃や歌舞伎の三大当たり狂言の作者というわけで、歴史的な大人物であり、人気芝居の作者ということで日本人の義理人情、人と社会との関係の取り方や美意識を大きく影響したといえます。この方の企画展が2009年12月から2010年1月まで、早稲田大学で開催されました。そのときのキャッチフレーズは「近松門左衛門以降の人形浄瑠璃界を支えて代表的人物」でしたが、この並木宗輔展では、協力団体として、第1番目に、三原中央図書館があげられています。協力の第2東京大学附属図書館、第3が東京大学文学部図書館ですから、三原はどれほど重要だったかがよく分かります。

第3は、三原の人々です。ご存じの方が多いと思いますが、三原には長崎で殉教した26聖人の一人聖トマス小崎14歳の銅像が舟入櫓の南東尾堀端にたっています。彼が母にあてた手紙が父親の衣服の襟から見つけられバチカンに届けられ、現在もそのスペイン語訳が残されているといえます。それが世界のカソリックの人々の感動をよびましたが、その手紙は、26人の殉教者が京都から長崎につれていかれる途中、三原城内の牢で書かれたものなのです。それで三原に銅像がたち、信者たちはいまでも巡礼に訪れています。

私が三原に来るたびに思うのは、三原の方は、この少年に筆と墨と紙を渡し、手紙を書かせてあげたことです。長くない手紙とはいえ、牢番一人の配慮ではないように思います。牢番のすることを少なくとも大目にみた人がいるのではないかと思います。ほかの土地で

も、殉教者に便宜を図ったかもしれませんが、三原にはこうした温情があったことは間違いありません。もしそうなら、京都から厳寒の真冬に裸足で（聖トマス小崎の像も裸足です）、苦難の26人はこの美しい三原で、多少は人間的扱いを受けたかもしれません。

わたしはキリスト教徒ではありませんが、こう思うと、すこしほっとしますし、三原に来るうれしさが増すように感じています。

この三原の人の優しさに私は4年ほど前に触れました。新幹線の広島駅のホームに上がるエスカレータの下には、焼き甘栗を売る女性が、味見の見本を差し出して栗のセールスをしています。私はカロリーを気にして買ったことはありません。ところが、三原に向かうこだまのなかで、たまたま出会った三原市の幹部の方が、甘栗を勧めてくださいました。お好きなのですかとお聞きしますと、「せっかく一生懸命売っているのだから、時々は買ってあげないとね」と仰いました。こんな優しさが三原には今もあるのだと思い、私も、新幹線に乗ったときは、重いワゴンを押している女性から、できるだけお茶かコーヒーを買うようにしていますが、やはり三原で、皆さま方のような方々が学生生活を送ってくださったことを嬉しく思います。

この三つのお話を、医療関係の仕事で人々の役にたとうと思って三原で学び、いま門出を迎える方々へのはなむけとしたいと思います。

皆様のご活躍を信じております。

本日は本当におめでとうございます。

平成24年3月16日

県立広島大学 学長 赤 岡 功